

第 2 回横浜市西区福祉保健活動拠点指定管理者選定委員会議事録

開催日時	平成28年 3 月 30 日（水） 13時00分から14時30分
開催場所	西区役所 3 階 A 会議室
出席者	<p>【選定委員】</p> <p>小平委員（委員長） 平野委員、三宅委員、渡辺委員、高垣委員</p> <p>【事務局】</p> <p>本間福祉保健課長、山中事業企画担当係長、折本担当職員</p>
欠席者	無し
開催形態	<p>公開（傍聴者 1 名）</p> <p>但し、指定管理者の選定に関する審査及び指定候補者の選定については非公開</p>
議題	<p>1 申込状況等の確認について</p> <p>2 面接</p> <p>3 審議</p> <p>4 その他</p>
決定事項	<p>以下の団体を指定候補者として選定し、横浜市西区長に報告することとする。</p> <p>指定候補者 社会福祉法人 横浜市西区社会福祉協議会</p>
議事	<p>○ 開会</p> <p>○ 確認事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定足数の確認 委員の半数以上の出席により、本会が成立することを確認した。 ・会議の公開・非公開の確認 <p>第 1 回選定委員会で決定したとおり、本会は原則公開、但し、指定管理者の選定に関する審査及び指定候補者の選定については非公開とすることを確認した。</p> <p>○ 議題</p> <p>1 申込状況等の確認について 資料 1 に基づき、以下のことを確認した。</p> <p>(1) 申込状況について 応募数 1 団体。団体は、社会福祉法人 横浜市西区社会福祉協議会。</p> <p>(2) 応募団体の各種照会 市税納付状況について、滞納者は無し。横浜市暴力団排除条例に基づく県警照会について、団体役員等に該当者は無し。団体の財務状況については、特に問題は無し。</p>

2 面接

(1) プレゼンテーション

応募団体より、法人概要、事業計画・事業方針等について説明。

(2) 質疑応答

委員：これからは高齢者福祉だけでなく、子どもの教育にも重点を置いていく必要がある。学校と連携し、福祉教育にも力を入れていく必要があると考えるがどうか。

応募団体：法人の事業運営の中で、いただいた御意見を参考にしていく。

委員：事業計画の中に、ボランティアの増加についての記述がある。私自身ボランティア育成に携わっているが、育成は難しいという事を実感している。ボランティアの増加について具体的にどのように考えているのか。

応募団体：今年度、地域福祉保健計画の検討の中で、ボランティアをしたことのない人にとって、初めてのボランティアは敷居が高いといった意見が出た。ボランティア未経験の方が始めやすくなるような取組を行っていく。

委員：法人の取組の中で、平成28年度以降における重点的な取組を2つ教えてほしい。

応募団体：1つめとして、ボランティアセンター機能の強化を考えている。ボランティアの受け手側とサービス提供側のニーズを合わせる事が重要で、そのためには情報発信が大事だと考える。活動者が、継続的なボランティアや地域活動につながっていくことを目指す。

2つめとして、平成28年度は横浜市西区地域福祉保健計画「にこまちプラン」が始まる年度なので、区や地域ケアプラザと連携した地区支援チームに引き続き参加し、地域支援の取組を進めていくこと、また、にこまちプランに関連する事業を主体的に進めることを重点的に行っていく。

そのほか、平成28年度から生活支援体制整備事業の一環として生活支援コーディネーターが配置されることもあり、地域の実態把握や見守り活動の支援を進めていく。

委員：ボランティアが地域の中で活動していけるようにすることが大切。現在は高齢者のボランティアが多かったり、子ども達をボランティアにつなげていくことが必要だったり、いろいろとすべきことは多いが、そのためのボランティアの育成を行っていかなければならない。

応募団体：確かに高齢者のボランティアは非常に多い。健康寿命を延ばす、アクティブシニアを増やすなど、様々な方向性が考えられる。高齢者でも潜在的な力を持つ人は多いと考えている。また、学校との連携については、これまでも進めてきているが、引き続き進めていく。

委員：「にしとも広場（にしく市民活動支援センター）」との連携が重要だと考える。「ボランティアセンター」と「にしとも広場」の役割分担をしつつ、理念を守りながら運営して行ってほしい。

応募団体：「にしとも広場」とは重なる部分もあり、市民からすると紛らわしく感じることもあるかもしれない。連携できる部分は連携し、役割分担しながら協力して西区の地域活動を進めていきたい。

委員：財政状況を確認したところ、繰越金がかなりの割合を占めている。こうした財政状況を維持するために、本来の事業を萎縮させているようなことはないだろうか。

応募団体：福祉保健活動拠点の運営に関しては、指定管理料の中で実施することになっているので、引き続き適切に行っていく。法人の事業については、運営が厳しいこともあるが、地域活動や法人の事業を縮小してしまうわけにはいかないので、一部取り崩すことも場合によっては検討する。また、お金がかからない事業としてフードドライブの取組を行った。食べることなく捨ててしまうかもしれない食材を集め、配食サービスなどを行っている団体に贈り、活用してもらった。こども食堂も区内で行われたりしているが、地区によっては新年会で寄付を呼びかけ、それなりの額が集まったりもした。地域の活動を地域が支えるような仕組みが出来つつあるので、今後も財政状況に関わらず事業を実施していきたい。

委員：貸室利用の中で多目的研修室は利用率が高いが、西区の利用団体で予約できないといった声はでていないだろうか。

応募団体：そういった声は聞いてはいないが、確かに西区外の利用団体も多く、課題の一つとなっている。横浜駅に近く交通の利便性があるので、区の施設というより市の施設といった感じに見えてしまい、区外の利用が多くなってしまっているのかもしれない。土日や夜間など、空いている時間帯もあるので、いろいろと工夫して活用していただけるようにしていく。

委員：ボランティアの増加に向けて、具体的な地域性やターゲット等の考え方があるのであれば教えてほしい。

応募団体：1つ目として、誰でも参加できるような場を多くしていきたいと考えている。入門講座や「ちょいボラ部」のような活動を行っていく。

2つ目として、「ハマのオヤジゼミナール」で定年を迎えた男性のグループ化を考えている。定年を迎えた男性がボランティアを経て地域に入っていくことを目指している。

3つ目として、これから活動を始める人向けの勉強会などを考えている。例えば、「こども食堂をやりたい」というニーズに対しては、子どもとの接し方や、接点の作り方を学ぶようなことが出来るといい。

そのほか、こどもボランティア講座として、夏休みに花火の後のゴミ拾いや、車いす体験を行ったりもしている。

3 審議

応募書類及び面接を元に、各委員が採点を行った。

【審査結果】

指定候補者	評価得点／満点(最低基準点)
社会福祉法人 横浜市西区社会福祉協議会	879点／1,100点(660点)

審査の結果、最低基準点の660点を満たしているため、社会福祉法人横浜市西区社会福祉協議会を選定委員会としての指定候補者に選定することを決定した。

4 その他

事務局より、第3期指定管理期間開始までのスケジュールについて説明。

○ 閉会

資 料

資料1 申込状況等の確認について